

茨城の海にまつわる話

本県観光の大きな柱

立秋も過ぎ暦の上ではもう秋ですが、暑い日が続いています。まだまだ水辺が恋しい時期ですので今回は、茨城の海にまつわるお話をしたいと思います。

180kmの海岸線がある本県には、日立、常陸那珂、大洗、鹿島の4つの港湾や平潟、大津、久慈、那珂湊、波崎など10の漁港と、そして19ヶ所の海水浴場があります。

そこで、本県の日立、大洗、鹿島3港の取扱貨物量を平成11年の港湾統計でみると、約7,200万トンで、ここ数年横ばいで推移していますが、本県の各港湾は、北関東の海の玄関口として常陸那珂港の利用も進み、今後、取扱量の増大が見込まれます。

また、黒潮と親潮が交わる本県の沖合いは全国でも有数の豊かな漁場で、農林水産省統計表によると、平成9年の本県の海面漁業漁獲量は約38万トンで、北海道の173万トン、長崎県の43万トンに次いで全国第3位で、中でも、イワシやサバ、

ハマグリなどの漁獲量は全国第1位です。

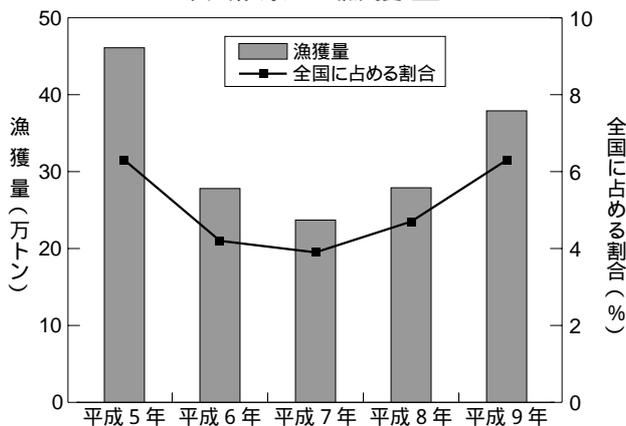
海水浴場ですが、平成12年度の環境庁調査によると、県内すべての海水浴場が水浴に適しており、特に大洗と波崎の海水浴場は、清潔で安全な楽しい水辺として「日本の水浴場55選」に選定されています。本県の海水浴客は、茨城の観光レクリエーション現況によると、近年減少傾向を示し、平成10年は約309万人と推計されています。しかし、平成14年には、新大洗水族館（仮称）もオープンしますし、海水浴場に限らず、海はやはり本県観光の大きな柱となっています。

私達一人ひとりが、こうした海の恵みに感謝をして、海や浜辺の環境を大切にすることにより、私達にいつまでも豊かな海の幸と良質なレジャースポットを与えてくれるのではないのでしょうか。

（県統計課）

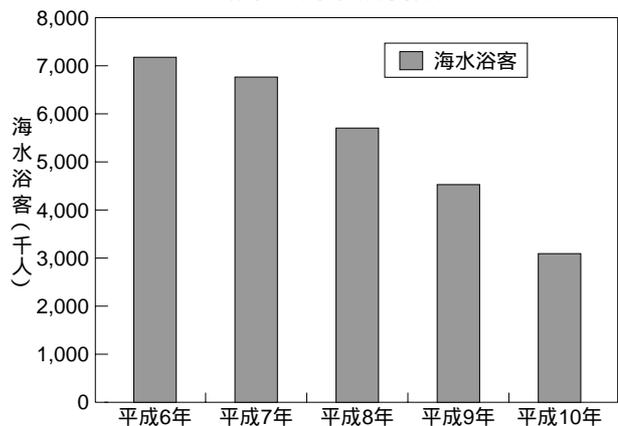
平成12年8月12日掲載

茨城県の漁獲量



資料：農林水産省統計表

茨城県の海水浴客数



資料：茨城の観光レクリエーション現況（県観光物産課）

「ふるさとおもしろ統計学」は第2、第4土曜日、茨城新聞に掲載されています。

環境保全規格ISO14001

本県取得団体170で全国8位

地球規模の環境問題について、様々な取り組みがなされています。今回は、そのひとつであるISO14001についてお話ししたいと思います。

ISO14001とは、スイスにある国際標準化機構（ISO）が定めたものです。ISO9000シリーズが品質保証の国際規格であるのに対し、ISO14000シリーズは、環境保全のための規格で、1996年から発効しています。排水や廃棄物など、企業等が環境に与える負荷を減らすための経営方針や行動計画の基準を示したものです。

ISO14001を取得することによって、企業等が環境へ与える負荷を見直すことで、省エネやエコロジー商品の開発につながり、ひいては企業等のイメージアップにつながることも期待されています。

今年6月末におけるISO14001の認証取得状況は、国や地方公共団体を含めた企業等の全国合計で3,992件となっており、本県では170の企業等で認証を受けています。これは都道府県別では第8位の数字です。民営事業所のみで見ると、本県において1万事業所当たり12.6件であり、これは滋賀県（17.7件）、三重県（13.5件）に次ぎ、全国では第3位となります。

また、最近の県内企業等の認証取得の推移は、1997年が29件、1998年が38件、1999年が56件、2000年も6月末現在ですすでに30件を数え、企業等の環境問題への取り組みが急速に進んでいることがうかがえます。

県内の市町村でも昨年11月に総和町が、今年3月に古河市が、6月には北浦町がISO14001を認証取得しています。本県においても茨城県公害技術センターが認証取得を目指しています。地方公共団体のISO14001認証取得には、地球環境問題に対する職員の意識の高揚や、地域住民や企業等に対する先導的役割を示す期待も込められているようです。

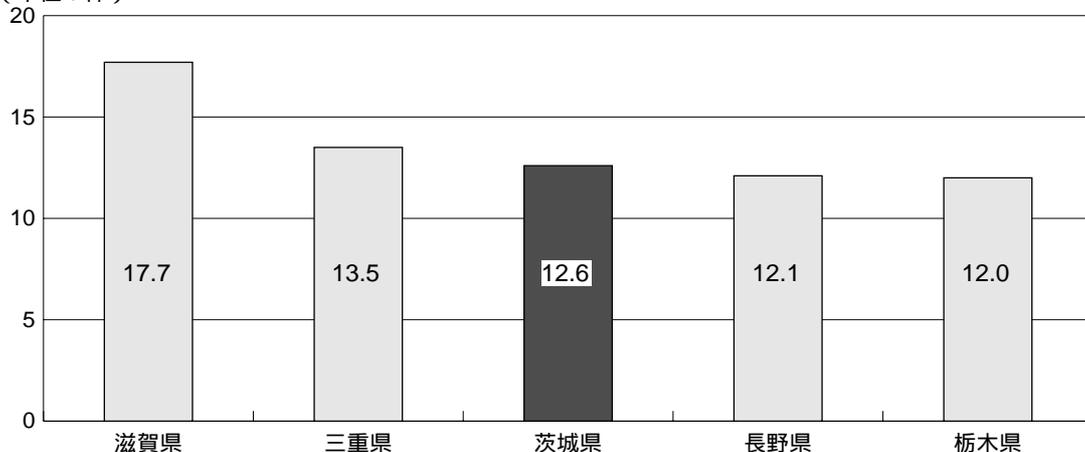
しかし、ISO14001は、認証取得そのものが重要なのではなく、むしろシステムを導入してそれをどのように継続・習慣化していくかが重要だと思います。

私たちが常に地球にやさしく生活することを心がけ、ゴミを減らす、省エネを進めるなど、できることから始め、習慣化していきましょう。

（県統計課）

平成12年8月26日掲載

（単位：件） 1万事業所当たりISO 14001取得件数（民営事業所・上位5県）



資料：日本規格協会（環境管理規格審議委員会事務局）調べ
平成11年事業所・企業統計調査（総務庁統計局）

「ふるさとおもしろ統計学」は第2、第4土曜日、茨城新聞に掲載されています。

